

ほけんだより

令和4年
1月19日(水)
羽村第三中学校
保健室 No.22

新型コロナウイルスを持たない・持たせない・持ち込まない!

校医の先生方からの皆さんへのメッセージ

小中合同学校保健委員会

例年、武蔵野小学校と連携して、小中合同の学校保健委員会を開催していましたが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、紙面での報告となりました。そこで、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の先生方から、今年度の定期健康診断の結果や、新型コロナウイルス感染症対策に関してのお話を伺うことができましたので御紹介します。



学校医・学校薬剤師の先生方も、皆さんの健康を心から願っています。御意見を伺ったのが昨年12月で、その時にはオミクロン株の急拡大はまだ起きていませんでした。1月の中旬に急遽感染拡大が起き、蔓延防止等重点措置が要請されています。今、この時の感染防止対策が感染拡大を抑え、自分の未来、友達の未来、家族の未来へつながります。引き続き、感染防止対策に取り組みしましょう。

<山口 賢一郎先生:羽村第三中学校 内科校医 >

新型コロナウイルス感染症は、昨年に比べ、全国的にずいぶん減少しています。様々な原因が考えられますが、その一つは、「注意しているから」減少しているのだと思います。インフルエンザの流行も、今のところは耳にしません。予防策は取っておいたほうが良いでしょう。石けんによる手洗い、手指のアルコール消毒、うがい(学校では飛沫が飛ぶのでなかなかできないかもしれませんが、自宅で)、マスク着用でこれからも新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等、様々な感染症予防に留意しましょう。山口内科クリニックでは、外来にいられた際も熱を測り、アルコール消毒等、感染予防を徹底しています。今後も決して気を緩めることなく、感染症を防ぎましょう。



<松原 弘明先生:武蔵野小学校内科校医 >

2021年も、2020年に引き続き、新型コロナウイルス感染症に翻弄された年でした。特に第5波の時には、羽村市で1か月に200人以上の新規感染者が出ました。その中でも、本校はクラスターの発生がなかったことは、先生方や児童の皆さんがきちんとした感染対策を行っていた証拠だと思います。デルタ株がなぜ激減したのかに対する明確な答えは明らかではありませんが、ワクチンの効果に加え、皆さんが平日頃から感染対策をしていたことが重要であったのではないのでしょうか。現在感染は抑えられていますが、世界では新たなオミクロン株の出現など、まだまだ気を許すことはできません。新型コロナウイルス感染症は、小児の重症化リスクは低いですが、たとえ軽症であっても後遺症のため日常生活が制限されているお子さんもいます。いずれにせよ、まだまだ安心することはできないので、引き続き感染対策をお願いいたします。

<宇野 浩先生:羽村第三中学校 歯科校医 >

新型コロナウイルス感染症拡大もそろそろ2年になろうとしています。感染症予防の観点からすると、昨年も言いましたが、手に付いたウイルスが口腔等の粘膜を介して感染するので、まず、手指をきれいにすること、そして口腔内をきれいに保つことが大切です。歯垢や歯肉炎があると、そこには菌がいっぱいいるためウイルス感染も起きやすくなります。①歯磨きを丁寧にしましょう。②むし歯や歯周病はできるだけ早く治しましょう。③口腔内の乾燥を防ぎましょう。(水筒の水、なければ水道水で、できるだけ口中、喉をうるおす。口呼吸をしないで鼻呼吸にする、マスクを着ける)この3つが大切です。中学校では、歯肉炎が小学校に比べて多いです。歯と歯茎の間に歯ブラシを45度の角度に当て、力を入れずに1本1本丁寧に磨いてください。特に夜の歯磨きが大切です。



<森谷 尊文先生:武蔵野小学校歯科校医 >

今年の検診結果では、むし歯の数は減少していますが、歯ブラシ不良による歯垢・歯石が増加していました。原因として考えられるのは、コロナ禍による休校が考えられます。お子さんたちは学校では規則正しい生活をしております。御家庭では、親御さんが規則正しい生活を注意していても、勉強やテレビゲームをしながらおやつを食べる、という習慣がつき、さらに歯ブラシ習慣が不規則になっていないでしょうか。まだまだ Covid-19 (新型コロナウイルス) による緊急事態宣言が発令し、休校があるかもしれません。そのようなときでも、健康のために、御家庭で規則正しい生活を心掛けてください。

<武藤 芳徳先生:武蔵野小学校・羽村第三中学校眼科校医 >

本年度の定期健康診断は、通常通り春に開催されたこともあり、去年と比べると花粉に伴うアレルギー症状が強かった児童・生徒が多かったように感じます。しかしながら、視力検査と眼疾患に関しての受診の割合が多かったことには感心しました。コロナ禍により、ステイホームの期間が続いたことで、眼科的にも影響が出ています。タブレットや携帯型ゲーム機の遊びすぎで視力低下の児童・生徒が増加する、眼位が内斜する(調節が行き過ぎてしまう)等のことがあるので、注意が必要です。夜遅くまでゲーム等をすることで、寝不足になると日常生活にも支障が出るので注意しましょう。



<込田 茂夫先生:武蔵野小学校・羽村第三中学校耳鼻咽喉科校医 >

難聴児にとって学校生活は、コロナ流行下で一層困難になっています。読唇による認知がマスク装着のため失われるうえに、ソーシャルディスタンスによるノンバーバル(非言語的)コミュニケーションも失われるからです。外界の状況が正しく認識できず、他者への適切な反応ができない結果、不安になり、落ち着きがなくなります。落ち着きのない児童を見たら自閉症スペクトラムなどの他に、滲出性中耳炎を含む難聴を疑う必要があります。家庭でも、背後から小声で話し掛けてみるのも一方法です。特に検診で、難聴や滲出性中耳炎を指摘された児童は、ぜひ耳鼻科でチェックを受けてください。



<塚田 和彦先生:武蔵野小学校・羽村第三中学校薬剤師 >

薬剤師としての意見は、黒板、空気、照度検査では、適正範囲でありました。教室の環境は問題ありません。今後は感染との付き合いも長くなると思いますので、手洗い、うがい、消毒を今まで通り行っていくことで、十分な対策と考えています。換気も十分に行っているため、一年を通して窓開けも継続してください。



これからも感染症
予防の取り組みを
継続しましょう!